

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	愛心子どもの家		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 9日		～ 令和8年 2月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 19日		～ 令和8年 2月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員は皆子どもが好きで、寄り添いながら認めながら関わることができる。	・子どもの自己選択・自己決定を大切にし、子どもに「どうしたい？」をきくようにしている。 ・子どもの感情に共感しながら関わっている。 ・子どものいいところ、できているところなどプラス面に注目して認めながら関わっている。	・子ども一人一人興味や関心が違うので、より個別的に関わるようにしていく。
2	・子どもの特性や状態に応じて、個別対応や環境調整を行うことができる。	・個室対応やパーテーションを使って刺激を軽減したり、イヤーマフを使用し、聴覚的にも刺激を軽減する等、より落ち着いて集中して活動に取り組めるよう柔軟に対応している。	・どの子どももより落ち着いて集中して活動できる環境調整を考えていきたい。
3	・建物の外(敷地内)にスペースがあり、走ったり、縄跳びなどができ、砂場の設置もあり、子どもがのびのびと動ける環境が整っている。	・外遊びができる時間帯を設定し、職員は子どもの主体的な行動を待ちながら共感的に接している。	・日頃はしない活動の設定や新たな遊びの提案をしたり、ヒントを出したりして幅広く活動ができるようにしていければよい。
4	職員からのアイデアが豊富で、意見を出しやすく、実現しやすい。	・「こんな活動してみたい」などを積極的に意見できる環境作りを心掛けている。季節を感じるができる活動を設定している。(工作やおやつ作り、昼食作り、果物狩り、季節のイベント行事など)	・子どもの成長や年齢に応じた個別の関わりを大切にしていきたい。
5	・体験型のイベント(果物狩り、餅つきなど)を保護者・きょうだい参加型で行い、体験をしながら交流がもてるようにしている。餅つきは、地域の方にも協力をいただいている。	・本人、保護者の意思にお任せしている。(参加は任意) ・安心して活動に参加できるように、事前の情報提供はなるべく丁寧に行っている。 ・イベント当日は、気軽に活動できる雰囲気づくりをしている。	・本人、保護者の負担の少ない範囲で楽しめる活動を模索していきたい。
6	・保護者との個別の相談ができる。	・送迎時の報告や相談などを行っている。 ・必要に応じて随時相談ができるようにしている。しっかりと話を聴くことを心がけている。	・余裕のある人員配置をしていき、引き続き行ってきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の場が少ない。	・事業所での支援の内容や「このようにしたらいいですね」は必要に応じて話しているが、情報提供や学ぶ機会がない。	・研修会の開催を検討していき、共に学んでいけるようにしたい。 ・先輩のご家族と方との茶話会を通じて、情報共有ができるよう検討していきたい。 ・ご家族向けの「愛心だより」で、日ごろの生活に役立つ関わり方や情報を発信していくことを検討したい。
2	・相談支援事業所や他事業所、学校との連携が足りない。	・職場内で考えることが先決となっている。 ・気軽に相談できる横の繋がりが薄い。	・日頃から横のつながりを意識する。 ・送迎時に他の事業所さんとお話したり、積極的に自分たちから関係機関にアプローチしていく意識を持つ。
3			